

第四章 ドコーピル鉄道計画といろは丸

□ ドコーピル鉄道計画


江戸川左岸の加（現千葉県流山市）と利根川右岸の花野井（現千葉県柏市）間約10kmをフランス人ドコーピルの発明による軽便鉄道で結ぼうとした計画。明治16年5月、いろは丸の航運会社社長林千尋や石川島造船所の平野富二が地元豪商等14人とともに千葉県に出願した。しかし、いろは丸が通運丸、銚子丸等との競争に敗れたこと、また、同時期に計画されていた利根運河のため実現しなかった幻の鉄道計画である。

□ ドコーピル鉄道計画発起人

次の表はドコーピル鉄道計画の発起人であるが、地元関係者の中に、いろは丸関係者の佐久間、小野、林、篠澤の4名が名を連ねていることに注目されたい。また、現石川島播磨重工業の前身、石川島平野造船所創始者である平野富二はいろは丸を造船している。

この計画は、下利根川流域と東京を一日で結び、汽船経営では後発ではあるが、交通革命を起こした「いろは丸」の壮大な計画である。

つまり、更なる、時間短縮と千葉県、茨城県の蒸気船業者（銚子汽船、木下の吉岡家等）との競争に打ち勝つためのものであったといえる。

	氏名	住所	鉄道 架設願	概算書	特許願	備考
			16年5 月	16年6 月	16年7 月	
1	矢澤源左衛門	千葉県下東葛飾郡 十余二村	○	×	○	
2	鈴木平八	全縣下全郡一ノ谷村 廿八番地	○	×	○	

3	<u>佐久間希清</u>	東京神田区小川町 一番地寄留茨城縣	○	○	○	平野富二 (1846~1892)
4	吉田甚左衛門	千葉縣下東葛飾郡 花野井村	○	×	×	 <p>乗客荷物運用鉄道廣告</p> <p>佛蘭西國は於て新發明の「アコー」 ルは此の如く自由の運用せられ其 地の速力にして先きの工部省へ 十分の速力にして先きの工部省へ 買上げ且此般内務省土木局より 告も手注成候運轉物料之類品 者一切試み運轉爲其并右諸 種等一切大敷寫真總九枚御入 所の代價三圓にて差上げ荷不 受付所佛蘭西國一丁目七番地住 取次人アコーイノ 官城雅亮</p>
5	<u>小野政精</u>	東京深川区御船藏町 四十五番地静岡縣	○	×	○	
6	中村権次郎	千葉縣下東葛飾郡 流山村百三十五番地	○	×	○	ドコーピール鉄道の新聞 廣告 (明治15年4月29日)
7	鎌田嘉左エ門	全縣下全郡加村 十三番地	○	×	○	 <p>ドコーピール鉄道鐵路</p>
8	<u>林千尋</u>	東京神田区猿樂町 一丁目五番地	○	○	○	
9	<u>篠澤豊太郎</u> <u>代理</u> <u>篠澤佐太郎</u>	長野縣北佐久郡岩村 田町 三百六十七番地	○	×	○	
10	平野富二代 理 今木七十郎	東京々橋区 築地二丁目拾四番地	○	○	○	 <p>圖第六十六番</p>  <p>圖第七十六番</p>  <p>ドコーピール鉄道貨客車</p>
11	秋元三右衛門	千葉縣東葛飾郡 流山村百九十六番地	○	×	○	
12	成島巍一郎	全縣下南相馬郡 布施村貳拾九番地	○	×	○	
13	池田榮亮	全縣武射郡 飯堰村壱番地居住	○	○	○	
14	諸町和吉	全縣東葛飾郡 中野臺村八拾七番地 居住	○	×	×	

註1 「鉄道架設之義ニ付伺」（明治十六年七月十二日）添付の「鉄道架設願」、
「同特許願」、「同架設概算書」より作成（公文録 2A-10-公 3689 国立公文書館蔵）

註2 「○」は氏名の記載あり、「×」は記載なしである

参考文献 拙稿（2001）「蒸気船からみる木下の明治（その2）」『印西の歴史』第3号
印西市教育委員会



□ドコーピル鉄道計画地略図（予定）